



5分でわかる!

TOKYO強靱化プロジェクト

「100年先も安心」を目指して



リサイクル適性[®]
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



「100年先も安心」を目指して TOKYO強靱化プロジェクトを始動

東京は、気候変動の影響により頻発化・激甚化する風水害や首都直下地震などの大規模な災害がいつ起きてもおかしくありません。

こうした災害から都民の皆様の生命と暮らしを守るため、関東大震災から100年を迎える2023年に「TOKYO強靱化プロジェクト」を始動しました。

先人たちの努力の結晶ともいえる安全・安心な都市を、
更にレベルアップして未来に引き継ぐ

東京に迫る5つの危機



風水害



地震



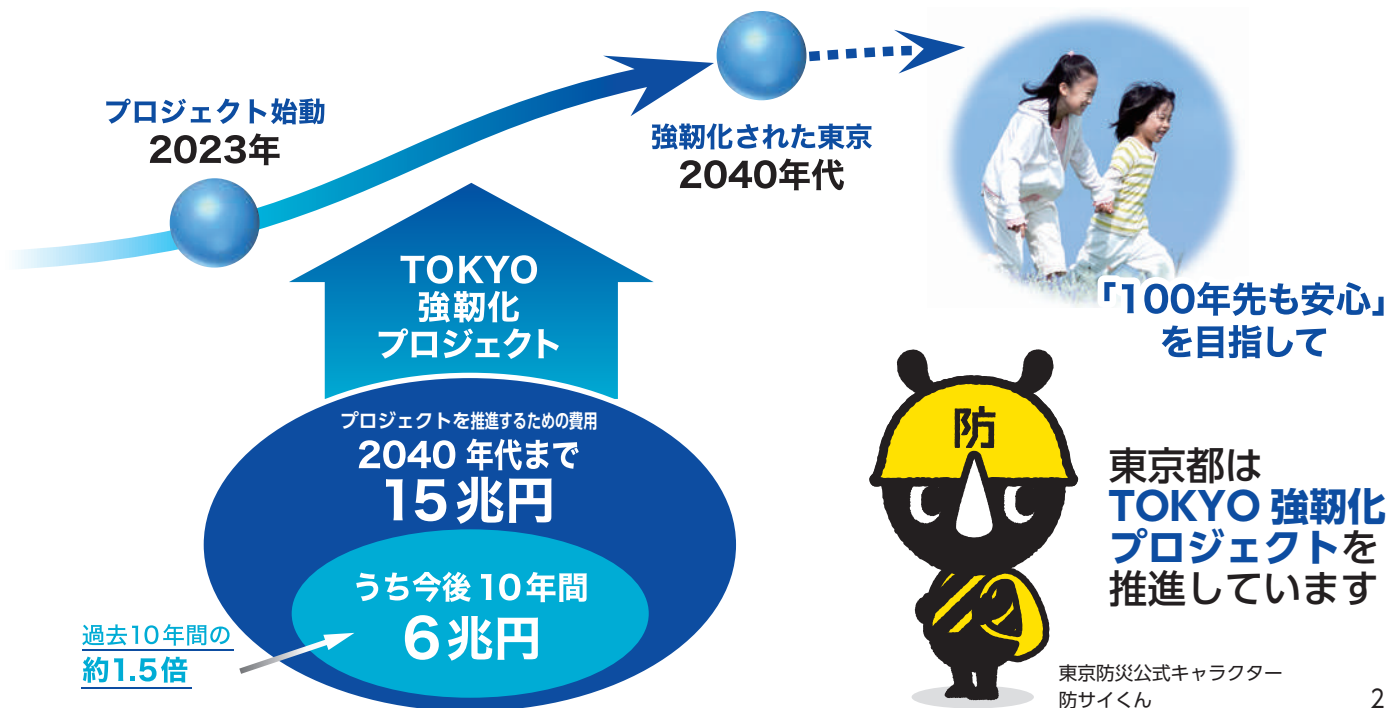
火山噴火



電力・通信等の途絶



感染症



東京に迫る5つの危機

1 風水害



気候変動により風水害の激化につながるおそれ

世界の平均気温が2℃上昇*すると
降雨量 **1.1倍**
海面水位 最大約 **60cm**上昇

地上最大風速 **59m/s** 以上の
非常に強い熱帯低気圧の
発生頻度が将来増加

※世界の平均気温上昇について、パリ協定では、1.5℃に抑える努力を追求しつつ、2℃未満を長期目標として設定

2 地震



都心南部直下地震（都内最大震度7）
で想定される被害

死者約 **6千人**

建物被害
約 **19万4千棟**

3 火山噴火



島しょの火山や富士山が噴火すると

島しょでは全島避難につながるおそれ

富士山が噴火すると
降灰量 最大約 **4.9億m³**
※東日本大震災のがれきの約 **10倍**

4 電力・通信等の途絶



大規模停電、通信障害は都民生活や
社会経済活動の大きな支障に

都心南部直下地震の被害想定
停電復旧完了 **4日後**

東日本大震災時の通信輻輳
音声通話 **70~95%規制**

5 感染症



“密”がリスクとなり、社会経済活動を
脅かす存在に

密を避ける意識が浸透

公園、広場など
屋外空間の高いニーズ

さらに被害を甚大化・長期化させる複合災害のリスクも



TOKYO 強靱化プロジェクトでは
5つの危機への備えを強化します！

各危機への対策を次のページから紹介します

激甚化する風水害から都民を守ります

目指す東京の姿

- 風水害による**不安を感じずに暮らせる**
- 災害に襲われても**避難する場所や経路が確保**されている

主な取組

浸水対策



気候変動に伴う **1.1 倍の降雨量**に対応します

- 河川の氾濫を防止する**護岸や調節池整備の更なる推進**
- 下水道浸水対策**の強化

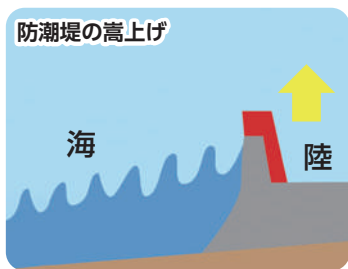
高台避難



逃げ遅れた場合でも避難できる場所をつくります

- 緊急的な避難先となる**高台まちづくりの加速**

高潮対策



気候変動に伴う**海面上昇 (最大約 60cm)**に対応します

- 防潮堤・河川堤防の嵩上げ**

「東京マイ・タイムライン」を活用して風水害に備えよう！

東京マイ・タイムラインはこちら



大地震があっても 「倒れない・燃えない・助かる」まちをつくります

目指す東京の姿

- 耐震化された建物と、燃え広がらない・燃えないまちが都民を守る
- 応急活動を支える交通網が確保され、救助がすぐに駆け付けられる

主な取組

緊急道路

無電柱化の推進



特定緊急輸送道路の閉塞
要因を解消します

- 無電柱化の推進
- 沿道建築物への耐震化支援の拡充

木密地域

市街地の不燃化



燃え広がらない・燃えない
まちを実現します

- 木密地域の建替え等に対する補助の拡充

住宅耐震

住宅の耐震化



地震による建物倒壊等の
死者8割減少を目指します

- 耐震性が不十分な木造住宅やマンションに対する耐震化の支援拡充

食料品や生活必需品などの
日常備蓄を**実践**して
大きな地震に備えよう！

日常備蓄の情報は**こちら**



噴火が起きても都市活動を維持します

目指す東京の姿

- 島しょでは、土石流等から都民の**生命・財産が守られ**、島民が**安全に避難**できる
- 富士山噴火に伴う降灰が生じてても、**交通やライフラインが長期間ストップしない**

主な取組

島しょ

避難施設の整備



火山噴火時、島民が円滑に避難できる環境を整備します

- 火山噴石対策を実施した船客待合所の整備

灰の集積処分

仮置場の確保



富士山噴火時の都内降灰量に対応します

- 降灰除去のための仮置場等の確保、降灰の処分

交通網

道路機能の早期回復



重要施設に繋がる道路の交通機能を早期に回復します

- 除灰を行うロードスイーパーなどの資機材を確保

火山噴火のリスクを知り、日頃から備えておこう！

東京都の火山に関する情報はこちら



災害時の電力・通信・データ不安を解消します

目指す東京の姿

- 災害時にまちらから光が消える心配がない
- 通信サービスを支障なく利用でき、いつでもどこでも誰とでもつながる

主な取組

電力



自立分散型電源の導入を促進し避難ができる環境を整備します

- 太陽光発電や蓄電池などの再エネ設備の導入やZEV※から供給する電力の活用を促進し在宅避難を支援

※ZEV(ゼロエミッション・ビークル): 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない自動車(電気自動車など)

通信



いつでも、誰でも、どこでも「つながる東京」を実現します

- 多摩山間・島しょ地域など基地局整備が困難な地域等において衛星通信を活用

データ



災害時に業務が継続できるデジタル基盤を整備します

- 業務システムやサーバのクラウド化を推進し、データを保全



電力は創って蓄めよう！

HTT(電力を減らす・創る・蓄める)の取組はこちら



感染症にも強いまちをつくります

目指す東京の姿

- 密を避け、**安心して集える空間**で、**都市活動が変わらず展開**されている
- **様々な交通モード**を選択でき、誰もが**感染リスクを心配せず快適に移動**できる

主な取組

都市空間



いつでもどこでも、**屋外で安心して集えるまち**をつくります

- 人が憩い、楽しく歩ける**ウォークアブルな都市空間の創出**

働き方・住まい方



多様な働き方、住まい方を柔軟に選べるまちをつくります

- 既存ビルのリノベーションによる**働き方・住まい方環境の充実**

交通手段



自転車や新たな交通手段が定着できるまちをつくります

- **船を活用した交通手段の多様化**や**自転車通行空間の整備**を推進



感染症にも強いまちで多様なライフスタイルを実現しよう！

プロジェクトを成し遂げるための4つの取組

強靱化に向けた気運の醸成 ～自助・共助・公助を強化する～

自助・共助・公助の一層の強化に向けて効果的な普及啓発を実施するなど、**強靱化に向けた気運を醸成**します。



多様な主体との連携 ～連携を強化し施策の効果を高める～

国や区市町村、関係自治体、事業者、都民・コミュニティなどの**多様な主体と連携し、施策を展開**します。



DXの推進 ～ハード面の備えの効果を高める～

ハード面の備えの効果をも**最大限高める**観点から、ドローンを活用した遠隔点検など、**DXを推進**します。



災害リスク情報等の発信 ～発災時に落ち着いた行動を促す～

都民や事業者、区市町村などへの**災害リスク情報の事前提供**や、**発災時の被害状況等の発信**を積極的に行います。

＜東京都防災アプリ＞
気象・地震・避難情報
などを発信



都民の皆様が安心できる
強靱で持続可能な都市を
実現します！

プロジェクトを 推進するための費用

総事業規模（概算）

	うち今後 10 年間
15 兆円	6 兆円

※本プロジェクトの推進に必要な、2040 年代までの事業規模を示しています。
※一部の事業は完了が 2040 年代を超えるものがあります。

<内 訳>

区 分	事業規模（概算）の内訳	
	うち今後 10 年間	
激甚化する風水害から都民を守る	6.6 兆円	2.0 兆円
大地震があっても「倒れない・燃えない・助かる」まちをつくる	9.5 兆円	3.7 兆円
噴火が起きても都市活動を維持する	2.1 兆円	0.6 兆円
災害時の電力・通信・データ不安を解消する	0.6 兆円	0.6 兆円
感染症にも強いまちをつくる	0.6 兆円	0.3 兆円

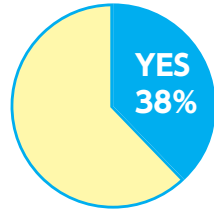
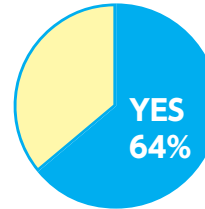
※複数の危機に対する事業があるため、合計は総事業規模と一致しません。
※プロジェクト策定時点での事業規模であり、今後変更が生じる可能性があります。

あした 備えよう、明日の防災

小学生に対するアンケートの結果

Q 災害が起きた時に避難する場所を確認している

Q 川の近くなど、大雨の時に危ない場所などを確認できるハザードマップを確認している



家族と離れているときに地震が起きたら、連絡が取れなくて心配（小学生高学年）

川などが氾濫して家に水が入って来るのが心配（小学生低学年）

子供達も、災害に対し様々な不安を感じており、避難場所やハザードマップに関心を寄せています。



TOKYO 強靱化プロジェクトでは、公助の取組と合わせて、「自助」・「共助」の取組を支援します。
みんなの力で災害に備えましょう。



令和 5 年は、関東大震災発生から 100 年の節目の年です。

こうした契機を捉え、都民一人ひとりの自らを守る取組を促すための気運を醸成します。



関東大震災 100 年

幾多の災害を乗り越えてきた東京
備えよう、明日の防災